

令和3年第12回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和3年12月16日(木) 14時00分
2 閉会日時 同日 15時05分
3 開催場所 加西市役所 1F多目的ホール
4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 深 田 英 世

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長 植 田 正 吾
教育委員会次長(こども園民営化担当)
高 倉 慧 喜
教育総務課長兼給食係長 伊 藤 勝
教育委員会課長(学校施設担当)兼施設係長
井 上 英 文
学校教育課長 安 富 重 則
こども未来課長 丸 山 常 基
生涯学習課長 北 島 悦 乃
総合教育センター所長 工 藤 憲 人
図書館長 藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長 松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

なし

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

なし

9 議決事項

なし

10 報告事項

教育長

11月15日(月)の前の定例教育委員会以後についてご報告する。

11月18日(木)、代表区長会に出席した。

11月20日(土)、認定こども園とみたの園舎竣工式に出席した。ここは大変深みのある赤と青と緑の外観が斬新で、好き嫌いがあるとは思いますが、それは別として、本当にあっと驚いた。個性を鮮明にすることが、このこども園の勢いにもなっているのだと感じた。これは最近、教育委員会事務局で常に話していることなのだが、現在は安心安全な箱ものをただ建てれば良いという時代ではない。随分前から建物がヴィジョンや機能性を表現する「デザインの時代」になっている。過去ではなく、これから先何十年も使い続ける、つまり未来に残っていく建物なのだという意識を持って、いわゆる「箱もの」と言われるものを建ててほしいと強く願っている。予算もあるだろうが、そこは知恵を絞ってデザインで、「加西市は子育てと教育のまち」であることを発信することが大事だと思う。それこそが、若い子育て世代の感覚に訴え、共感を呼ぶ一つの人口増政策ではないかとも思っている。

同日午後、健康福祉会館で幼児教育研修講座が行われた。講師は鳴門教育大学大学院木下光二教授であった。この講座は幼小接続についての大変心に響くものだった。私たちはつい「幼小連携」と言ってしまうが、木下先生は「幼小接続」と呼ばれている。たくさんいいことを述べられたが、その一つを上げると「子どもの遊びの中にこそ学びの芽生えがあるのだ」。「そのためには、必要なものが全部入っているキットを与えるのではなく、材料を探して見つけるところからあえて見守って自分で考えさせてあげることが、遊びの中に学びを芽生えさせるのだ」というお話があった。私はこれを聞き、これこそまさに加西 STEAM 教育だと思った。会場には多くの小学校の先生方が参加をされ、とてもうれしく感じ、いいことだと思った。

11月22日(月)、令和3年度永年勤続表彰式が加古川の播磨東教育事務所で行われた。加西市から何人も表彰された。勤続20年に対する謝意の場で、永年、一生懸命に教育に携わってこられた方々に対する感謝の気持ちを新たにした。

11月23日(火)午後、STEAM Fes.「ONE DAY STEAM」と名づけた催しが、アスティアカさい3階の地域交流センターで開かれた。教育委員さんたちも来てくださっていた。

主催は市立図書館であるが、教育総務課や学校教育課はもちろんのこと、教育委員会事務局総出のイベントになった。当日会場に行くと「あれは何？」と聞くと、ライブ発信をしているブースだった。それで、「あれをやっていらっしゃるのはどういう方？」と聞くと、現役の学校の先生だと言う。また、それぞれのブースで子どもたちに教えている講師の方の顔をふっと見ると、首長部局の課長だったりして、職場の縦割りを越えて、準備段階から部署の垣根を越えた本当に自由で前向きな空気に包まれており、大変快く感じた。

会場にはドローンが飛び、また、micro:bitやマイクラフトなどのコーナーもあり、何よりも子どもたちが楽しそうで生き生きと挑戦をしていた。STEAM教育は最新テクノロジーの活用を促す理数系のエリート教育ではないかとイメージされる方もいらっしゃるようだ。しかし、「加西 STEAM」が目指すのは、その正反対のものだ。もちろんこれからの時代に対応するには、プログラミングなどの知識や方法論はマスターしなければならないのだが、実はそれと同時に、この豊かな歴史や自然を有する加西市で誰一人取り残すことなく、自分の未来を夢見て、みんなで一緒に協働してそれを実現しようとする子どもの育成である。後日、館長に聞いたところ、申込開始5分で満席になったという。そういう事実もやはり保護者の関心の高さを裏づけていると思うので、皆様にはこれをご理解の上、ぜひ前向きに応援していただきたく思う。

11月24日(水)、おやこ劇場運営委員長が教育長室を訪問された。おやこ劇場が40年もの間、努力してずっと続いているというのはすごいことである。いろいろと歓談させていただいた。

11月25日(木)の朝、AFK(アスリートファーマーズ加西)のセレモニーが行われた。有機を意識しながら農業をされている方々のグループである。毎年、こども園にお米を寄附していただいております、そのお米をこども園へ贈呈していただく出発式が行われた。

その後、子ども子育て会議を開催した。前回の子ども子育て会議で積み残しになっていたテーマ、0～2歳児の小規模園や未来型児童館建設などの案件について話し合われ、委員さんからは大変積極的な発言が多く出された。実はこれは予定に入っていなかったプラスアルファの会議だったため、こども未来課にとっては資料作成など大変だったと思う。しかしながら、こうした会議はきちんと議論を尽くすことが大変なことだと思う。時間が足りなければ、再度開くなどの努力をしたいと考えている。この会議開催はとても良かったと思う。

11月26日(金)夜、加西市安全・安心のまちづくり市民大会が市民会館で行われ、出席をした。

11月27日(土)、幼保連携型認定こども園北条こども園の園舎竣工式が行われた。このところコロナ禍で1年ほど延期になっていた私立こども園の竣工式が、「愛の光」から始まり、といっても「愛の光」はタイプが別であるが、次々に3つの園で竣工式が

行われた。加西市の子育て、幼児教育にとって大変ありがたいことだと感じた。

実はその後、職員採用試験の面接が行われたので、北条こども園からそちらへ慌てて直行した。

11月28日(日)、北播磨地区の子ども会議が善防公民館で行われた。今年ようやく実現でき、加西市が担当だったので皆さんに寄っていただいた。まだ実際にコロナの不安もあり人数は少なかったが、やはり子ども会がきちんと活動していることを皆さんがそこでご確認されて良かったと思う。その会場でもドローンを教えていて、子どもたちはやはり大好きなのではしゃいでいた。

11月29日(月)、令和4年度当初予算について財政課とヒアリングが行われた。これは来年度に行っていく事業に対する予算の決定であるので、なかなか大事な局面に入ってきている。

11月30日(火)は12月議会の本会議初日であった。

12月1日(水)、定例校長会が開催された。午後には商工会議所との懇談会が行われた。三役として出るようにということだったので、私も懇談会に出席させていただいたが、やはり立場というか、生きている場が違っていると、たくさんの面白い話題が飛び交い、市長も「なるほどね」と言いながらお話を聞いていらした。こういう懇談会もいいものだと思った。

12月2日(木)、北条東小学校で2回目のSTEAM出前授業が行われた。前回に続きPPESのチーム、また東京からも二人来てくださって、今回はゼロカーボンに取り組む企業がどのぐらいそれに対して努力をしているかということをお大変分かりやすく講義してくださいました。私としてはいつも時間が許す限りなるべく現場に出たいと思っており、STEAM教育に関することには特に努力をしている。企業からお話を聞くリアリティーというものは、もちろん「加西STEAM」の狙いでもあるのだが、同時に「素晴らしいキャリア教育にもなっているのだ」と実感した。教師から学ぶことと、実社会の社会人、企業戦士たちから学ぶこととは、やはり子どもたちの受け止め方が違っていると実感する。「ああ良い授業だったな」と思いPPESさんに感謝した次第である。

12月3日(金)には、「教育の要請」ということで加西市教職員組合の代表がお見えになり、市長と私の二人で要望を伺った。主張や要求は、立場によって違いは多少あるが、良き教育を目指す志においては共通の目標を持っている。これから共に将来の教育に向かって進みたいということで、終始、和やかにお話しをした。

12月4日(土)、加西消防署一日体験が行われた。これは女性団体連絡会議が毎年行う催しで申込制である。年長さんから小学3～4年生ぐらいまでの子どもたちが、自分で申し込んで参加するので、すごく興味がある子たちが一生懸命に勉強してきていた。「これは何々でしょう。これはあれでしょう。これはこうするんでしょう。」と積極的に質問している。やはり興味を持つということは大変大事なことだと思いながら、ほほ笑ましく見せていただいた。とにかく子どもたちは消防自動車を見せてもら

ったり、クイズをしたりと楽しんでいたのだが、何よりも子どもたちからいっぱい質問を受けている消防士さんたちがすごく楽しそうで、副署長さんたちも「僕たちは消防のことしか分かりませんので、こういうことがあると本当にうれしいんですよ」と言われていた。教育委員の女性お二方も主催者側にいらしたが、いい催しを続けていただきありがたく思っている。

12月8日(水)は本会議2日目、12月9日(木)は本会議3日目であった。これについては市議会のほうで発信されているので、ご確認いただきたい。

12月10日(金)、富合小学校6年生が伊東電機のイノベーションセンターを訪問した。これは明確にSTEAM教育の実践として掲げられていたので、私も同行して見学をさせてもらった。皆さんよくご存じかもしれないが、コンベヤ駆動用のモーターローラ「パワーモラ」の開発、製造、販売を行っている地元加西市の企業である。昭和21年創業で75年になる企業なのだが、今や日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジアと10か所以上に拠点をお持ちで、ホームページでは年商149億とされている。何より驚いたのは世界シェア50%だということから、市場はほとんど伊東電機製ではないかと思うぐらいの高シェアである。

私はあまり機械に詳しくなくて申し訳ないが、社長さん自らがマルチアングルボールソーターという機械について説明された。わざわざ関東の工場からピピッとリモートで遠隔操作をすると、現実には子どもたちの目の前にある機械が動き、荷物が黄色や赤と色ごとに仕分されていく。子どもたちはもうびっくり仰天で、そういうことによって現代を、未来を感じるのだろうと思う。その荷物の仕分の実演には子どもたちは大きな歓声を上げていた。

そのイノベーションセンター内には野菜工場もあり、LEDの光を使って温度管理をしながら無菌でレタスを作っている。それを1袋、子どもたちはお土産に頂いて、とても興奮して学校に帰っていった。校長先生から子どもたちのアンケートをいただいた。「伊東電機でアルバイトさせてくれないかしら」と書いてあって、「ああいいな」と微笑んだ。この子どもたちがもしかしたら将来加西市の企業に勤めてくれるかもしれないという気がして、私はとてもうれしかった。

12月13日(月)、臨時校長会が開かれた。

12月14日(火)、総務常任委員会が行われた。

12月15日(水)、播磨東地区教育委員会連合会研修会があり、多可町ベルディーホールに行ってきた。教育委員さんもお出席いただいていた。講師は大阪大学名誉教授の小野田正利氏で、タイトルは「難しくなる保護者対応トラブル」であった。講師はびっくり返りそうになるぐらい大変ユニークな方で、お話もユニークだった。会場に入った途端にスイカ柄のジャケットを着ている人がいて、「うわ、あれ何？、人形？」と思ったら、その方が講師だった。要するにシリアスな難しい話なので、なるべくユーモアを交え分かりやすくというお気持ちでずっとそういうふうにされているようだった。

た。お話の中で、先生は「希望格差」と言われていたが、「現在は経済格差もその希望格差も広がって、その格差によるキーワードは『孤立』である」と、「だから、何事に対しても独りで苦しんで対応しないで、きちんとみんなの知恵を寄せ集めましょう」というようなことを具体的に指摘されており、大変印象的だったのでご披露しておく。

学校教育課長

小・中・特別支援学校における学校教育活動について報告する。12月で間もなく2学期が終わるので、総括した報告をさせていただきます。

まず、2学期の教育活動へのご支援、ご協力に感謝申し上げます。現在のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大状況は認められていない中、2学期終業式を間もなく迎える。

2学期は各校で日々の学習活動を充実させるとともに、それぞれの学校色のある教育活動を展開してきた。特に小・中・特別支援学校ともに、兵庫型体験教育・自然学校、トライやる・ウィーク、交流体験チャレンジについては、まだまだコロナ禍であるため、これまでにない活動を取り入れてきた。

まず、小学校の自然学校について。例年は朝来市にある南但馬自然学校という施設で行っていたのだが、昨年度と同様で本年度は11校中10校が、オークタウン加西での1泊2日の宿泊を伴う体験活動を行った。多くの学校が体験活動を入れながらも、例えばSDGsの視点で活動内容を見直し、環境などの課題に取り組むようなプログラムを入れている学校もあった。残りの1校である西在田小学校は、万願寺にあるNPO法人原始人会にお世話になり、地元の古民家に宿泊し釜でご飯を炊いて、自然の中での生活を楽しみ、地元よさを再発見するような活動をした。

次に、中学校のトライやる・ウィークについて。例年のように連続した5日間での事業所の体験学習は叶わなかったが、トライやる・ウィーク創設時の理念である「地域で学ぶトライやる・ウィーク」に立ち返り、生徒が自ら展開していくような活動を行った。具体的には、「長崎への修学旅行と関連づけた鶴野飛行場跡での平和学習」、「北条の町並みを絵はがきにして、例年お世話になっている事業所へはがきで感謝を伝える学習」、「法華山一乗寺の清掃活動と歴史学習」などを行った。また、「地元企業の伊東電機さんの企業理念などについての講演」を聞いたり、「『いのち』をテーマにしたシリーズもので、クリーン活動、平和学習、公民館シニアカレッジへの参加、助産師さんの『いのちの授業』」などを実施している。

最後に、特別支援学校の交流体験チャレンジについて。今年は念願かなって南淡路青少年自然の家に行った。野外炊飯体験でカレーを作ったり、砂浜での活動、乗船体験などを通して、集団活動を通じた体験活動や自立を目指した活動を行うことができた。

このように本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けてきたが、各学校とも

にこれまでの学習活動・教育課程・カリキュラムなどを見直す機会として、新たな取組、殊のほか児童生徒が自ら思考し、判断し、表現していくような、新学習指導要領が目指す目標に迫る取組を行ってきた。これは今、市教委全体で進めている「STEAM教育」によって育もうとする「次世代型人材」の育成につながるものだと考えている。

最後に、卒業式について、現時点での方向性をお伝えする。本年度卒業式は別添の予定表に記載されているように、小学校は3月23日水曜日、中学校は3月16日水曜日、特別支援学校高等部は3月4日金曜日、特別支援学校小・中学部は3月18日金曜日を予定としている。感染状況を踏まえ、今年はコロナ禍前の通常の規模で実施する予定である。卒業生、保護者、在校生、教職員、そして、ご来賓の皆様にもご臨席いただく予定。教育委員会からも教育委員の皆様をはじめ、教育長、事務局管理職に告辞をお願いしたいと考えている。どうぞよろしくをお願いしたい。

ただ、これはあくまでも現時点での方向性であり、一応の判断は2月2日の定例校長会で決定したいと考えている。その後、感染症の状況等を鑑み、随時判断していく。変更があれば、その際にお伝えさせていただく。ご理解とご協力の程、どうぞよろしくをお願いしたい。

こども未来課長

令和4年度施設入所申込状況について報告する。10月に保育事業の入所申込みの受付を締め切った。その12月1日現在の集計を報告する。本年度については、公立園4園で501名。昨年は632名だった。私立園については、「北条東こども園」が「私立北条東すみれこども園」となり、7園プラス小規模保育所1園で740名。昨年は621名だった。公立園、私立園合計で1,241名の申込受付をしている。ちなみに昨年は1,253名だったので、大方昨年並みの申込状況と言える。

次に、令和4年度学童保育園入園申込状況について報告する。定員は合計450名で、申込状況は465名であった。北条では、定員60名に84名申込みがあった。また、北条東も九会も定員を超えている。もし定員を超える場合、主に3年生までのお子さんに対して優先的に入園していただくことにしている。昨年度は434名の申込みで、昨年よりも30名ほど増えている。ちなみに昨年は10名程度辞退されたということだ。最終的に、4～6年生については保留ということで調整を図っていきたいと考えている。

続いて、サンライズキッズ保育園加西園の設置認可について報告する。4月1日開園に向け、家庭的保育事業等設置認可の申請手続を進めている。今現在、市役所そば定行税理士事務所さんの隣接地である予定地で建設が始まっている。その概要について改めて報告する。

事業所名は「サンライズキッズ保育園加西園」。所在地は先ほど申し上げた北条町横尾の箇所である。設置者は株式会社エクシオジャパン。設置者住所は神奈川県横浜市

となっている。代表者は佐伯猛様。園長は山田美和様の予定。開園予定は2022年4月1日。ちなみに募集については、先ほどの報告でお伝えしなかったが、募集期間を2月中に設けて、1月広報で告知する予定。つまり追加で募集をしていく。

連携施設について、「幼保連携型認定こども園とみた」さんが連携施設として3歳以上の受入れを予定している。連携内容については、乳幼児卒園後の受け入れ。サンライズキッズさんの卒園後、つまり2歳から3歳になるときに連携園とみたへ移行をする。また、相談や助言による支援を行う。合同保育として、サンライズキッズさんとみたさんへ行って施設に慣れ親しむこともやっていく。それから、代替保育ということで、もし何かあればとみたさんが保育を担うというような補完的な機能を有している。また、行事への参加に関する支援ということで、とみたさんと共同で行事を実施するというような内容である。それと、卒園後の具体的連携内容としては、今のところサンライズキッズさんは2歳児7人という定員にしており、その7人の枠をとみたさんが受け入れる予定。入所審査はポイント制になっており、それが加算されることで連携園のとみたさんに優先的に入れるという手続になる。

定員は19名。うちゼロ歳児は6名、1歳児が6名、2歳児が7名。開所時間は平日、土曜日を含め7時30分から18時30分。早朝保育は7時から7時30分。延長保育は18時30分から19時30分となっている。

食事の提供については、基本自園調理で栄養士を配置する。献立は栄養士が作成する。給食の提供方法と方針については、記載のとおり。まず、栄養士による献立作成をし、保護者へ実際の給食を写真で掲示。衛生管理マニュアルに基づいた徹底管理の下での提供。家庭と連携を取りつつ、調理形態を考慮し完了食へ移行する。また、子どもの五感を豊かにし心身の発展を促すため、野菜の栽培やクッキングなどを通していろいろな食材と触れ合えるようにしながら、食育に取り組むとしている。アレルギー児童に対しては、除去食の献立を品目ごとに作成し、アレルギー疾患児担当保育士が調理員と献立内容を確認する。アレルギー児童1人ずつ色の違うトレーで提供をして、提供時には園長、調理師、担当保育士3名以上で確認を行う。食事中は担当保育士の見守りにより事故防止を図る。ということで、事故のないような体制を取ることになっている。

職員関係については、保育従事者が専従6名、非常勤5名。保育補助の保育従事者が専従として1名。嘱託医は非常勤の兼務2名。それから、園児19名の定員のため、本来の基準上必要人数は5名。常勤、非常勤を含めた常勤換算後の人数は9名。平均経験年数は20年という内容になっている。

現在、4月開園に向け認可手続をしており、今月中に手続を完了したいと思っている。

教育委員の意見や質問及びこども未来課長の回答

- ・学童保育について。園で言うと、北条学童が3年生までだけでも75名希望者がいる。少し辞退があったとしても、定員をオーバーする可能性があるかと思うが、その辺はいかがか。

(回答)今のところ定員は60名だが、緩和措置、弾力条項により1割増で定員の上限を設定して66名の枠を確保しようと考えている。あとについては、最終的に待っていただくという上限があることはあるが、申込内容では保育の必要性についての審査があるので、少し言いにくいところであるが、やはり本来必要な方に入っただくように。というのは、申込者には夏休みを主体に考えられて、本来必要かどうか微妙な方も含まれており、夏の時期になると落ち着いてくるという状況があるからだ。

- ・保護者の要望を十分に聞いていただいて、よろしくお願ひしたい。感謝申し上げる。

- ・サンライズキッズさんはすごく遠方の企業だが、募集は全国に発信されたのか。

(回答)そうである。

- ・遠方の企業なのでどんな企業かと心配になって調べてみたところ、佐伯社長さんは情熱的な方で、高砂の白陵高校を卒業しているということだった。この方は大分県出身なのに何で白陵高校に行かれたのだろうか。

(回答)それは分からないが、社長はこちらが育ったところのようである。関東で起業をされたが、やはりこれからは自分の育ったところで事業をしたいということで、たまたま加西市の募集に参加していただいたというような状況である。

- ・とても情熱的な方で、ご苦勞をされているように書かれていたが、どういう経緯で加西へ応募されたのか。社長本人にはお会いになったのか。

(回答)お会いした。我々より若く情熱的な方だった。これからどんどん事業を拡大していきたいということで、募集については業界内で情報が回って出ているらしい。絶えずそういう情報をチェックされているらしく、それを見られて応募されたという。我々がそこへ積極的に営業をしたわけではなく、たまたま確認されて応募されたようである。関東が拠点なので、何とか自分の育った関西の地域へ展開したいという希望があり応募されたと聞いている。

- ・加西に新しい色が入ってきて、刺激的でいいことだと思うが、どのような保育をしたいと言われているのか。

(回答)保育については申請書を見たほうがいいのだが。保育計画には目標があり、

ここで全てをお伝えできないし、あくまで計画であり、どう特徴的表現をすればいいのか分からないが、例えばゼロ歳児の保育計画では、安全で快適な環境の中で1人1人の生活リズムを大切にし、気持ち良く過ごせる保育所との親密な関わりを通し、人との信頼関係が芽生えると。また、言葉に関わる様々なサインを丁寧に伝えてもらい、自己表現が活発になるような保育を目指すとしている。そして、1歳児、2歳児も目標を掲げられている。3歳未満児の保育なので、3～5歳児の子どものようにいろいろな行事を行うことはなかなか難しいので、家で保護者が育てていらっしやるような家庭的な保育をすると。小規模保育は静かな環境で保育が行えるので、落ち着いた保育がしたいとおっしゃっていたと思う。それから、五領域という健康、人間関係、環境、言葉、表現ということに重視しながら保育を行うということだった。どう表現していいか分からないが、我々としては加西に新しい風を十分吹き込んでいただけのらうと期待しているところである。

・保育のみか。

(回答) そうである。保育教諭ではなく、保育士さんが保育をされる内容である。

・もう保育士さんは確保されているのか。

(回答) そうである。

・園長先生は加西の方か。

(回答) 園長予定の先生は、加西の方で経験者である。

生涯学習課長

生涯学習課より青野原オーストリア 2019 プロジェクトの収録動画公開についてご報告する。現在、動画配信サイト YouTube にて 10 月 24 日に鶉野飛行場巨大防空壕で収録された青野原楽団の演奏動画を公開している。

青野原楽団は、第一次世界大戦時にオーストリア・ハンガリー帝国の捕虜たちが青野原俘虜収容所内で演奏した楽曲、それを「捕虜音楽」と言うが、その音楽を復元し演奏活動を行っている関西の演奏家で構成された楽団である。令和元年度には、このプロジェクトによりオーストリアに派遣され、同年より市内外で複数回の演奏会を実施している。

今回、加西市にある2つの時代の大戦遺跡を音楽でつなげようと、鶉野飛行場跡の巨大防空壕での演奏を行い、その模様が YouTube で公開されている。演奏された曲目は、資料にあるとおりである。

教育委員の皆様には、ぜひこの QR コードからアクセスをしていただき、演奏をお聞きいただきたいと思っている。そして、チャンネル登録と高評価を頂ければ、活動へ

の励みになると思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

併せて、報告事項には挙げていないが、机上に「こども情報誌冬号」を配布させていただいた。子どものための遊びと学びの情報誌ということで、12月から1月中の市各担当課、生涯学習関係機関等が開催する子ども向け講座を一覧にして、11月末に市内小・中学校を通じて児童生徒全員に配布したものである。後でご覧いただけたらと思う。

教育委員の意見や質問及び生涯学習課長の回答

- ・今、青野原の収録の件をご説明いただき感謝している。演奏については、QRコードから見させていただいた。本当に防空壕の中でしっとりとした演奏がされていて、とても心が落ち着くいい演奏だと思って聞かせていただいた。ただ、登録数や閲覧数が数字でよく出てくるのだが、そこがまだまだ少ない。これは何かでPRや広報されているのか。

(回答) プレスリリースは何回かにわたって行っており、また、市のホームページ等でもPRをしている。ただ、委員さんが今言われたように、まだまだ登録数も本当に少ない状況なので、これからいろいろな機会を使ってPRしていきたいし、もっと増やしていくための方法を考えなければいけないと思っているところである。

- ・音楽もあの場所も本当にすばらしい環境でされているので、できるだけPRをすることで皆さんに聞いていただけたら、青野原の一つのPRにもなるので、よろしくお願ひしたい。

- ・同じ意見だが、富合のふるさと創造会議で俘虜収容所の公開というか、資料も展示をされていて、私も少し行かせてもらった。熱心に解説され、本当に詳しくきちんと当時の様子を紹介していただいた。この演奏についても、ものすごく音響効果が良かったということで、演奏の形も好評だったと聞いている。私も少し見せていただいたが、本当にとてもいい演奏なので、こういう活動をこれからも、また、これ以外にも活用できればと思う。戦争というイメージだけではなく、やはり芸能ということも発信していく新たな施設という考え方で、鶉野の戦争遺跡であったり、青野原の俘虜収容所であったりを本当に活用していかなければいけないと思うので、よろしくお願ひしたい。

総合教育センター所長

Chromebook 活用に係るガイドラインについて報告する。新学習指導要領では、未来を主体的に切り開く力の育成のため、全ての学習の基盤を育成する資質、能力の一つ

として情報活用能力が示され、GIGA スクール構想においては、多様な子どもたちに個別最適化され、1人1人の資質能力が効果的に育成できる教育 ICT 環境を実現することが求められている。

加西市では令和2年10月より児童生徒に1人1台のChromebookを配付し、利活用推進のガイドラインのバージョン1を策定した。そして、この11月には、さらなる利活用促進、児童生徒と教職員の活用能力向上に向けてバージョン2を策定した。主な変更点は、健康面の配慮とタブレット端末持ち帰りについての追加内容である。

タブレット使用による健康面の配慮については、文科省通知の「1人1台端末の利用に当たり、保護者等との間で事前に確認・共有しておくことが望ましい主なポイント」より明記した。特に、(6) 就寝前の使用については、スマホやゲームを含めて問題になっており、知識としても保健の授業等を通して学んでいく必要がある内容だ。

持ち帰りについては、GIGA スクール構想において授業で利活用するためであったタブレット端末が、コロナ禍での臨時休業等の社会的状況がきっかけとなり、緊急時の連絡やオンライン学習を含めた学習手段として、急速にタブレット端末の持ち帰り準備が求められるようになったことから追加をされた。

次に、家庭用モバイルルーター貸出しについて報告する。タブレット端末持ち帰りの準備が急速に求められるようになったが、最大の課題は学習機会均等の観点から、各家庭の ICT 環境の平等性の確保であった。例えばケーブルテレビが配備されているような地域一体型の無線通信環境等、市町によって環境が違い、ICT環境の平等性の確保に対する手だてや対策、負担は市町により様々である。加西市においては自宅にWi-Fi環境のない児童生徒に対し必要な事項を定め、モバイルルーター貸出しにより家庭学習の支援を図る。

貸出対象者は、家庭にWi-Fi環境が整備されていない児童生徒である。ルーターの貸出しを希望する保護者は、「家庭学習用モバイルルーター貸出申込書」により申し込み、教育委員会がその申し込みを適当と認めるときは貸出しを許可する。ルーター貸出しにかかる費用は無償とする。ただし、11月定例教育委員会で学校教育課長が説明したとおり、就学援助・特別支援教育就学奨励費を受給中で、ルーター貸出しを受けない家庭に対しては、オンライン学習通信費を支給する。具体的な貸出方法は、Chromebookの持ち帰りと合わせてルーターを貸し出し、Chromebookと共にルーターを学校に持って来て返却をする。

各家庭のWi-Fi環境については、これまで何度か調査をしてきた。調査のたびにWi-Fi環境は整ってきており、11月末の最新調査では市内全体の貸出希望台数は47台であった。これを受け11月末にデジタル戦略課に報告し、必要台数の契約をした。今月14日にSIMカードが業者より届いたため、センターでセッティングや番号振り、学校別仕分を行った上で、昨日午後には市内全ての学校への配布を完了した。これにより市内全小・中・特別支援学校でのタブレット端末の持ち帰りの環境が整った。

各校の実情と必要に合わせ、持ち帰りを含めた学習ツールとして Chromebook の活用を促進していく。これからも、多様な子どもたちに個別最適化され、1人1人の資質・能力が効果的に育成できる ICT 環境を実現し、未来を主体的に切り開く力の育成のため、学習基盤育成の一つとして情報活用能力の育成を進めていきたい。

教育委員の意見や質問及び総合教育センター所長の回答

- ・何点かお聞きしたい。まず、資料7ページ1の(2)と(3)についてお聞きする。(2)は「操作方法や活用方法について研修講座を企画する」、(3)では「伝達講習を行う」というふうに書いてあるが、今のところ大体どれぐらいの頻度で、どのような研修を考えていらっしゃるのか。

(回答) (2)に関しては、最近各学校でも校内研修を盛んに行っている。割と若い教職員は自分たちで自主研修を続けて堪能になっているので、どちらかと言えば教育的なことはベテランが若手に伝えるのだが、ICT機器に関しては逆に若手が中心となってベテランに伝えるような校内研修をしている。それから、総合教育センターのほうで行っているたくさんの研修講座の中に、今年度は操作研修、活用研修を4回程度入れている。さらにアンケートを取り、来年度はそこから次の段階の操作や活用について、研修講座の内容を変えていこうと考えている。

(3)のエバンジェリストというのは、ICT教育に関わる推進教員のことで、学校にいる教師の中でこれを受け持っている者がいる。なかなか伝達講習を行うといっても授業があったり、学級があったりと、市内全体や他校までという機会を持つのは非常に難しい。まず、校内から始め、時期やタイミングが合えば、学校外の他校の教職員向けの講習も計画しているような状態である。

- ・次に、8ページ2の(1)児童生徒について(4月に必ず確認する)ということで同意書がある。これは多分こういうことに同意してくださいねということで取られると思うが、これは保護者に対して同意書を求めるということによろしいのか。

(回答) 4月に使用に当たっての同意書で、パスワードをきちんと設定して、他人のものは使いませんといったような使用に関する約束事を定めている。それを4月初めに毎年更新し、内容の確認の意味も含めて同意書を取ろうと考えている。

- ・去年したから今年はいいいというわけではなく、4月ごとにその都度同意書を取ることによろしいか。

(回答) そうである。

- ・それから、資料10ページの「加西市家庭学習用モバイルルーター貸出要領」のこ

ろで、こちらは施行日が「11月4日」になっている。この前の通信費は「12月1日」施行日になったが、こここのところはどうなのか。ただ実際にルーター等を購入されて配布したのは昨日と聞いたので、これはこれでよろしいのか。

(回答) 各学校に説明をし、希望調査を取り始め、このような形でルーター貸出しをしますと、貸出の準備を進めていったのは、実は11月初めからである。そこから各家庭の貸出希望を学校ごとに集め、その後、センターに集まったのが、最終的に11月末になった。そこで、デジタル戦略課へ契約の希望を出し、SIMが届いたのがつい今週になったということである。

・分かった。要領ということなので、そういうふうにつまみさせていただきます。

・資料12ページのルーター貸出しについての書面は大体いつ頃配布されるのか。もしくは既に配布されたのか。

(回答) これはもう配布している。日にちが空いているのは、各学校で配布日を入れて配布してもらっているからである。希望を取るときに、これを一緒に説明書として出している。

1.1 協議事項

なし

1.2 教育委員の提案

なし

1.3 今後の予定について

- ・令和4年第1回定例教育委員会 1月20日(木) 14:00～1F多目的ホール
- ・令和4年第2回定例教育委員会 2月24日(木) 14:00～市民会館小ホール

1.4 その他

・先ほどの教育長の報告でもあったが、11月23日火曜日に「ONE DAY STEAM」STEAM Fes. という催しが図書館前で行われた。教育委員全員で参加をさせていただいて、予約開始5分で満席になったというほどの人気ぶりだったそうで、大変うれしく思っている。それと、職員の皆さんがあれを準備されるのは本当に大変だっただろうとお察しする。感謝をお伝えしたい。そして、1回目とあったので、恐らく2、3回目と、もし続くのであれば大変だと思うが、またご検討をよろしくお願ひしたい。

(回答) 参加した子どもたちからすごく満足、楽しかったという声があった。「家でもSTEAMフェスしたんだ」というコメントで、独自で開催したと図書館に報告に来た子

もいた。反響が大きかったので、できれば2回目も考えたいと思う。ぜひまたご協力のほうをよろしく願いしたい。

- 同じ点であるが、このフェスティバルの最後に、西在田小学校の子どもたちが自分たちの環境教育の実践を発表していた。当日少し都合が悪い児童もいて本当に人数が少ない中で、前もって別のところで発表はされていたというが、また原稿を変えたり、分担をいろいろ変えたりしたそうで、それでもきちんと分かりやすく、丁寧に堂々と説明をしてくれた。すごく印象に残る良い発表だったと思う。

それから、教育長も言われた富合小学校6年生の伊東電機訪問については、新聞にも載せられていて、「思った以上にすごい」という子どもたちの感想が書かれていた。やはり子どもたちが実際に今どこまでICTが進んでいるのかとか、そういった企業を目の当たりにすることで、自分たちはここから何年もの社会を支えていくのだという一つの動機づけのようなものになるのかなと思った。

それぞれの学校でとてもいい取組をされて、地元のいろんな企業、あるいは西在田の原始人会も含めて地元のいろいろなところとのつながりを大事にしつつ、教育されているということにとっても感謝している。今後ともよろしく願いしたいと思う。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和3年12月16日

出席者

(出席者署名)